

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2570200374
法人名	社会福祉法人 大樹会
事業所名	グループホーム和楽
訪問調査日	平成22年6月22日
評価確定日	平成22年7月8日
評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2570200374
法人名	社会福祉法人 大樹会
事業所名	グループホーム和楽
所在地	滋賀県彦根市野田山町1098番地 (電話) 0749-30-3387

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432番地 平和堂和邇店 2階
訪問調査日	平成 22年 6月 22日

【情報提供票より】(22年 6月 1日事業所記

(1)組織概要

開設年月日	平成 15年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8人	常勤	7人 非常勤 1人 常勤換算 7.5人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	17,000 円	
敷 金	87,000円+介護報酬1ヶ月の10%			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	月額40,000円			

(4)利用者の概要(5月 13日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名	
要介護1		3名	要介護2		1 名	
要介護3		2名	要介護4		2 名	
要介護5		1名	要支援2		0 名	
年齢	平均	85.6 歳	最低	83 歳	最高	91 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	松木診療所
---------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

社会福祉法人大樹会はグループホーム和楽と保育園とアイサービスを併設している。ホームは静かな住宅地の一角にある。広い庭は保育園の運動場でもあり、その庭は一面芝生となっている。その一角に菜園と保育園児が育てている草花が植えてある。鶏を飼い池には金魚やアヒルが泳いでいる。その脇にはグリや柿が植えてあり、秋には収穫出来る。ホームの内装は日本建築様式を踏襲して畳の部屋に置いた和箆箆がよく似合う。長浜の盆梅展、多賀大社、彦根のバラ園や彦根城とドライブをかねて外出する機会が多い。弁当の配達を受けたり、外食も頻度多く取り入れている。ホームの生活は毎日園児の訪問を受け、ホームからも保育園へ訪問して利用者のピアノに合わせて合唱するなど園児との交流を楽しんでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回評価では運営推進会議メンバーに自治会長の出席提起をしていたが、実現出来ていない。重度化終末期に向けた家族との共有の文書化は出来ている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>平成21年12月に全職員を対象に自己評価票を配りそれぞれに評価をした。纏め作業は課長が行い結果報告を全職員対象のミーティングで行い、課題の改善活動はこれから行う。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議メンバーは地域、学識経験者、家族代表、利用者代表、行政、事業者で構成している。開催は6回行ったが議論が充分に出来る時間が取れていない時もあった。出された意見はミーティングの中で話し合いをして改善活動に活かしている。</p>
重点項目 ③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>重要事項説明書に意見苦情窓口を事業所、行政、第三者機関を明示している。毎月発行している利用者毎の家族通信に返信用の意見苦情用紙を添付して気楽に出せる環境を整えている。出された意見などはミーティングの中で話し合い改善活動に結びつけている。</p>
重点項目 ④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域で毎月行われている老人対象の「いこいのサロン」に利用者が出席し、日帰り旅行にも参加するなどの交流をしている。ホームの所属する大樹会主催の夏祭りには地域の協力や参加を得て盛大に開催している。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域や自然に触れ合いながら、町の人々と行き来しながら地域との理解を深め、双方向の融和しながらの生活」と地域で生活していくことの理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	年始に理事長から理念の考え方や方針の発表がある。職員の異動時には新人教育の中で理念の説明をしている。理念の項目が多すぎて職員に理念が十分に共有化出来ていない。		理念の項目の集約化を図ると共に、職員に理念の共有と理解をさらに深めるために毎日の引き継ぎ時やミーティング時に理念の考え方についての話し合いをして職員との共有化に努力してほしい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入している。利用者の住民登録がホームでないことから老人会には加入出来ない。地域で行われている「いこいのサロン」に毎月参加している。法人行事の夏祭りは地域の参加やボランティアスタッフとして支援を得ている。小学校との交流はない。地域から保存食材の差し入れを受けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価票を21年12月全職員へ配布し、月末に回収した。まとめ作業は、課長が1月中旬に仕上げた。ミーティングで職員に報告してこれから改善活動に取り組んでいく。		
		○運営推進会議を活かした取り組み	会議メンバーは地域、学識経験者、家族代表、利用者		自治会員は防犯会や消防団や老人会、工務会や自治会

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	代表、行政、事業者で構成している。会議は年間6回開催している。会議はホームの概況報告が主で質問や意見や提案も出た会議となっている。意見はホームのスタッフ会議で話し合いをしている。開催時間が短くて十分な議論が出来ていない時が見受けられる。	○	日宿会長は防災云々や消防団や老人云々、子供云々や日宿云々のボランティアグループなどの総括責任者であり、繋ぎ役を担って貰う為に運営推進会議に出席して頂く努力をしてほしい。運営推進会議は議論が出来る時間を取るように配慮してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員は毎月2名、受け入れている。 法人主催の夏祭りや餅つきなどに地域包括支援センター職員も行事に参加している。 介護福祉課へ理事長などが相談事項などで訪問する機会が多い。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	広報紙「和楽通信」を2ヶ月毎に届けている。利用者個々の生活記録は書式を定め、毎月報告している。家族訪問時に利用者の生活状況の報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に意見苦情窓口を事業所、行政、国保健康保険連合会の3箇所を明示している。毎月「家族通信便り」に意見苦情提起の用紙を綴じ込み、返信して貰う様にしている。家族会や運営推進会議で出てきた意見などはミーティングの中で改善の話し合いをしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員異動時に利用者のダメージを抑える為に該当利用者に対し1ヶ月間のダブりの引き継ぎ期間を設けるようにし、最悪でも1週間は設けている。職員の定着を図る為に新入職員歓迎会の開催など職場に早く馴染む雰囲気づくりや、法人内教育訓練に力を注いでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修、ホーム内研修、グループホーム交換研修などを集約した年間研修計画表を作成して実行している。 認知症介護実践研修は毎年1名づつ出張扱いで受講するように配慮している。		職員毎の育成計画を作成して長期展望に立った人材育成をして職員の士気向上と能力アップに努めて欲しい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隔月に開催する彦愛犬グループホーム事業者協議会に 毎回5人程 の職員が参加している。協議会の交換研修には毎回1人参加している。学ぶべき内容は参加者が「報告書」を発行し全員に回覧している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用予定者宅へ職員が訪問して馴染みをつくっている。利用予定者や家族の見学や体験も受け入れている。利用者が入居してからは雰囲気早く馴染める様に担当職員は接触を多く持つようにしている。家族の訪問頻度を多くするように働きかけている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	地域や家族から差し入れて貰った材料で梅干し、干し柿、らっきょう漬けなどの保存食や、郷土料理やおせち料理など利用者に教えを請うて、一緒に作業をしている。ホーム内の菜園での野菜の育て方を教えて貰いながら菜園管理をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活歴や趣味、思考の聞き取りからフェスシートに仕上げている。利用者の幼年、学生、青年時代、仕事、趣味、娯楽、恋愛、結婚、マイホーム等々利用者の持つ情報を12枚のシートに纏め意向把握の基礎資料にしている最中である。意向把握に困難な時は家族に聞くようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員が利用者や家族の意向を聞き取り介護計画の原案を作成してケアマネージャーと検討して仕上げている。介護計画書は利用者家族に説明して家族の署名と捺印を得ている。		
		○現状に即した介護計画の見直し			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月カンファレンスを行っている。カンファレンス時や状態変化を観察した時にはその都度見直しをかけている。状態変化がなくとも3ヶ月毎に見直しは掛けている。家族の署名捺印は得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	理美容院への送迎支援、個人的な買い物支援や、利用者宅で必要な着換えなどの物品を取りに帰ることに支援をしている。行政への申請や更新の代行業務も支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者家族のかかりつけ医への移送支援が困難な事から協力医への希望により協力医(内科医)に切り代えている。眼科、歯科などは従前のかかりつけ医の利用である。家族に代わって受診支援も行っている。その時には診察結果は家族に連絡している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「入居者の重度化にともなうケアの対応について」・「急変時においての確認書」を文書化して利用者家族に説明と話し合いをして署名捺印を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人権・個人情報の取り扱い、プライバシーなどの教育は法人内研修に組み込んで全員受講している。利用者の情報書類は目の届かない書庫で管理している。利用者の人権や感情を逆なでしないように努力している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての大まかなスケジュールはあるが菜園を能動的に管理してくれる利用者3名いる。裁縫や広告紙でかご網をする利用者など趣味をそれぞれ一日を楽しんでいる。カラオケや喫茶店へ出かける事の好きな人にも個別な対応をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物は利用者と共に毎日行っている。能力に応じて調理や盛り付け配膳の役割を担っている。食事は職員と一緒にしている。咀嚼能力の低い人には別途配慮している。バーベキューや弁当を取り寄せたりして変化を持たせている。外食頻度も多く、時には梅酒、ビールを飲む事もある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室と脱衣室に暖房器を設置している。入浴は2日に1度を基本とし、入浴時間は午後帯としている。毎日、入浴希望する人には毎日入浴支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事、洗濯たたみ、鶏のえさやり、掃除、調理等能力に応じて担っている。カラオケボックス、喫茶店、ボーリングなど楽しんでいる。併設の保育園児が毎日訪問してくれる事や利用者が保育園へ訪問して、利用者のピアノ演奏で幼児と合唱をする事や、前庭で園児の走り回る姿を眺めるのは楽しみ。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のよいときの散歩や食材の買い出しが日課となっている。ドライブをしながら多賀大社やバラ園など外出は月に2回程度している。カラオケや喫茶、ボーリングなど好む人だけの外出支援も頻度多く行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けていない。利用者が単独で外出する場合はセンサーが働き、必ず職員が外出に同行するようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時を想定した避難訓練は消防署の指導や立ち会いを受けて2回行った。緊急時の対応マニュアルは整備している。自衛消防隊も編成出来ている。		消火訓練や避難訓練に地域の協力を取り付ける為にも自治会や消防団、防災会などの参加をして貰える様に努力してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算は栄養士が行っている。利用者の咀嚼能力や食べ残しは管理している。食事材料に配慮すべき人には特別の調理や味付けをしている。水分補給は配慮しているが記録管理はしていない。		水分補給の管理も健康チェック表などに追加して記録管理してほしい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所、食堂、居間は一体となっていて、仏壇や床を設けた和室もあり広い空間となっている。ホーム内には手すりを設け杖を持たなくても歩行が可能な配慮をしている。居間からバルコニーに出られその前庭は広く鶏を飼い草花や菜園と果樹や桜などが植えてある。池にはアヒルや魚が泳いでいて庭園を眺めているだけでも心癒される配慮をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は和室に仕上げている。利用者の使い込んだ家具や小物道具類の持ち込み量にバラツキがある。ホームでのスナップ写真や色紙や手作りの作品やアルバムが多くあり利用者の生活ぶりを感じる。		新品のダンスやプラスチックの収納ボックスなどの持ち込みが気になる。利用者のケアサービスに、使い込んだ家具や道具類が大切な役割を担っている事の大切さを家族に理解を得る努力をしてほしい。